

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第3回業務推進全体会合
議事録

日時：平成25年11月8日（金） 13：30～16：30

場所：TKP スター会議室根津

出席者：18名（順不同・敬称略）

木村 浩（PONPO）、足立（元気ネット）、田満字（PONPO）、大石（PONPO）、
神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、木村 謙（東大）、久保（PONPO）、佐田（JAEA）、
篠田（若狭湾エネ研）、渋谷（元気ネット）、竹中（PONPO）、土田（関西大）、
中岡（元気ネット）、丸山（PONPO）、三谷（原子力コミュニケーションズ）、
諸葛（PONPO）、渡辺（新日本PA）

配布資料

3-0. 議事次第

3-1. 第2回業務推進全体会合議事録案

3-2. パワーポイント資料（PO 中間フォロー説明資料）

3-3. 社会調査に関する検討

3-4-1. 第6回エネルギーと原子力に関するアンケート（首都圏住民用調査票）

3-4-2. 第7回エネルギーと原子力に関するアンケート（原子力学会員用調査票）

議題

0. 議事録確認

1. 進捗報告

2. 社会調査に関する検討

3. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

0. 議事録確認（配布資料 3-1）

木村_浩氏より、資料 3-1 に基づき、前回の議論の内容が確認された。

1. 進捗報告（配布資料 3-2）

木村_浩氏より、資料 3-2 に基づき、現時点での業務の進捗状況が確認された。なお、これは第 1 回外部評価委員会（10 月 31 日）、および、PO 中間フォロー（11 月 8 日午前）において報告された内容である。

- ・ 最終目標を見据えて研究を進める段階に入った。
 - 「いわゆる専門家」がいなくても成立するコミュニケーション・フィールドであることは、強みになりうる。
 - フォーラムの「機能の明確化」を目指す。
- ・ フォーラムは「信頼形成」がひとつの目的；フォーラム参加者間の信頼形成なのか、社会全体に広げていくのか。後者を目指すべきではないか。
 - 信頼形成のコミュニケーションの方法論としてまとめることができれば、広く社会で活用できる仕組みとして広がっていくのではないか。

2. 社会調査に関する検討（配布資料 3-3、3-4-1、3-4-2）

土田氏より、資料 3-4-1、3-4-2 に基づき、昨年度の調査の内容が確認された。

続いて、資料 3-3 に基づき、今年度も継続する質問項目、追加を検討している質問項目の案が説明された。その後、活発な議論が行なわれた。

【昨年度の質問項目の継続／廃止】

- ・ Q3（規制委員会に期待すること）は、今年度問う意味は少ない。聞くなれば、「原子力の規制についてお聞きします」という形にすべきではないか。
- ・ Q12～15（20 年後の発電）は、願望を聞いているのか、予測を聞いているのか、理念を聞いているのかははっきりしない。
 - 福島事故以前から測定しており、経年変化を見る意味はある。また、12 月発表予定のエネルギー基本計画を受けての世論の反応も見るができる。
- ・ Q16 のケ）は「大丈夫だと言ってほしい」とあるが、最近、「大丈夫なように対応してほしい」という意見をよく聞く。
 - 「対応が不十分だと感じる」、あるいは、「大丈夫だとは言ってほしくない」などと聞いてはどうか。

- 「放射能や放射線について、自分たちで管理したい」「国や専門家に管理してほしい」と対で追加してもいいかもしれない。
- **Q18**（会社が信頼される理由）は、継続質問でもあり、興味深い結果が得られてはいるが、分析が困難。削除候補になるだろう。

→「信頼の理由」を問うことは重要。この研究において重要なのは、「会社」ではなく、「個人（例：専門家）」が信頼される理由である。「個人が信頼される理由」に変更してはどうか。

→信頼できる情報源について聞いてはどうか。

→「信頼」に関する質問項目は、フォーラムの効果測定においても重要であり、充実させるべき。
 - **Q19、20** は、もう聞くべき時期は過ぎたのではないか。（**Q20** は、1つの質問で2つのことを聞いているという欠陥もある）

【追加する項目】

- a) 汚染残土について
 - 汚染残土の最終処分場の見通しが立っていない現状では、あまり問う意味がないのではないか。
- b) 高レベル放射性廃棄物処分について
 - 追加するならば、**Q5～9**に影響を与えないように、後半に設問すべき。
 - この2年間、高レベル放射性廃棄物に対する首都圏住民の関心が上昇しているが、除染の廃棄物と混同している可能性がある。その点を検証してはどうか。
 - 福島第一原発4号機の使用済み燃料貯蔵プールのトラブルを受け、「高レベル放射性廃棄物の最終処分場を早く決めなければ、使用済み燃料が発電所に貯まり、危険だ」という意見が増えているのではないか。
 - 小泉元首相をはじめ、「高レベル廃棄物の処分場ができなければ、原子力はやめるべきである」という意見がよく聞かれる。この意見に対する納得の程度を聞いてはどうか。
- c) 新エネルギーについて
 - **Q12～15**との調整が必要。**Q15**は、おおよその傾向は見えたので、必要性は低い。
 - 新エネルギーの何に期待しているかを問うてはどうか。
- d) 福島第一原発の廃炉事業について
 - 汚染水の問題について聞いてはどうか。
 - **Q1**の形式で、何を不安に思っているか聞いてはどうか。（魚介類の汚染、食物連鎖による濃縮、地下水への流入、作業員の被ばく、作業員の質、作業員の人数等）

e) 低線量被ばくについて

- ・ Q16 をベースに、設問を入れ替えればいいのか。
- ・ どの範囲が低線量なのか。
→科学的に健康影響の証拠がない 100 ミリシーベルト以下ではないか。10、20 ミリシーベルトなどの、科学的に根拠のない数値に対する反応も見てみたい。
- ・ 首都圏住民の認識と福島で被災された方の認識には大きなギャップがあるだろう。首都圏住民の認識が明らかになる設問が望ましい。
- ・ 今回は首都圏住民対象の調査だが、地域への展開も可能な形に設計すべきではないか。
- ・ 除染の長期目標である年間 1 ミリシーベルトと、避難の基準である年間 20 ミリシーベルトを混同している人が多いのではないか。その点を「ご存知ですか」と聞いてはどうか。 →「ご存知ですか」という質問は分析しにくい。
- ・ 健康リスク（100 ミリシーベルト）と、安全基準（1、20 ミリシーベルト）は分けて考えなければならない。

その他

- ・ 「原子力に携わっている人（ムラびと）を信頼できるか」の対極として、「デモに参加している人（原子力に反対している人）を信頼できるか」と聞いてはどうか。
→「ムラびと」の対極は、「(不安を抱えている) 一般市民」ではないか。
→デモに参加するほどではないが、漠然とした不安を抱えている人は多いのではないか。漠然とした不安の中身が分かるような質問項目を設けてはどうか。
→質問の仕方によっては、調査票の中立性が損なわれるおそれがある。入れるならば、Q10 の中に加える程度が無難か。
- ・ 再稼働の是非を聞いてはどうか。 →Q11 に盛り込む。

以上の議論を踏まえ、以下の方向性が決定された。第 4 回業務推進全体会合開催前に、社会調査コアグループによって、より詳細な内容が検討されることになった。

- ・ 調査設計は変更なし。(継続性を重視)
- ・ Q1、2、5、6、7、8、9、10、17、デモグラフィック項目は継続。
- ・ Q11、16 は項目を入れ替えて継続。(追加項目を盛り込む)
- ・ Q12～14 は、Q12、14、13 の順番に変更して継続。Q15 の代わりに「新エネルギーの何に期待しているか」という質問を新設。以上を 1 ページに収める。
- ・ Q18 は「会社」ではなく、「個人」の信頼を問うように変更。Q3 の位置に移動。
- ・ Q3、4、15、19、20 は廃止。
- ・ 廃炉については Q1 の形式を検討。
- ・ 高レベル放射性廃棄物に関する質問を新設。場所は Q5～9 より後。

3. その他

木村^浩氏より、第4回業務推進全体会合の日程（12月20日（金）9：00～12：00）が告知された。第4回では、社会調査票の確定、および、フォーラム参加者の募集方法を確定する予定である。

以上